

三条市租税教育推進協議会長賞

## 税金が支える命と安心

新潟県立三条商業高等学校 三年 若林 海人 わかばやし かいと

私は小さいころから体が弱く、風邪をひきやすい体質でした。季節の変わり目や人混みに出るたびに熱が出たり、喉を腫らしたりして、病院に行くのが当たり前のような日々を過ごしてきました。そんな私の幼少期は、病院と薬に支えられてきたと言っても過言ではありません。

母はいつも私を抱えて病院に連れて行き、受付を済ませ、診察室の前で私の背中をさすりながら順番を待ってくれました。診察が終わり、薬を受け取って帰るたびに、母はため息をついていたのを覚えています。当時はまだ子どもだった私には、それがどういう意味かは分かりませんでしたが、高校生になった今、その意味を痛いほど理解できるようになりました。

私たちは、私が五歳になった時に父親の提案で日本のおばあちゃんの家に住むことになり、ベトナムから移住してきました。やはり日本に来てからも、私は変わらず体が弱く、病院に通うことが多かったのですが、ある日、母が私に言いました。「日本は、本当にありがたい国だよ。病院代も薬代も、たくさん税金で助けられているんだよ。」そのとき私は、初めて「税金」という言葉の重みを感じました。

日本では、国民全員が保険に加入し、医療費の多くを税金と保

険料でまかなっています。私たちが窓口で支払うのは、全体のたった三割ほどです。それ以外の大部分は、国が負担してくれているのです。その仕組みがなければ、私のように体の弱い人間は、安心して病院に行くことができなかったかもしれません。

病院に行くたびに、「これも税金のおかげなんだ。」と考えると、胸が熱くなります。私は、多くの人の支えの中で生きている。見えない誰かが私の命や健康を支えてくれている。そんな思いに、自然と感謝の気持ち湧いてきます。

今までは、税金と聞くと「大人が払うお金」や「なんだか難しそうな制度」というイメージしかありませんでした。でも、今までは、「社会の安心をつくる仕組み」「誰かを支えるもの」だと感じていました。

税金によって支えられた私の命。これから私は、誰かを支えられるような存在になりたいと思います。勉強をして、働いて、自分も税金を納めて、今度は誰かの不安や苦しみを少しでも軽くしてあげたい。そう思うのです。

税金は、ただの義務ではありません。それは、誰かの命や安心につながる大切なバトンなのだと、私は心から感じています。